

# 2026年度入学者用外国語科目履修ガイド

2025年11月27日 国際戦略推進機構

本学では2026年度入学者より全学教育科目（教養教育）のカリキュラム改訂を予定しております。このガイドに掲載した内容は現時点での予定であり、今後変更となる場合がありますのでご承知おきください。確定した内容は入学後に配布される全学教育科目履修案内及び各学部からの履修案内等でお知らせします。

（注）**2年次以上の編入学者**の方は、2025年度以前の履修基準が適用されるため、このガイドとは内容が異なります。教育推進機構ウェブサイトに掲載の「2025年度全学教育科目履修案内」をご参考ください。

URL: <https://ope.ynu.ac.jp/wp-content/uploads/2025/05/2025zengakukyoikukamoku0321.pdf>

## ○ 各学部等の外国語履修基準について

### 2026年度入学者外国語科目履修基準

学部	学科・課程・EP等	英語			初修外国語	備考
		実践英語	応用英語	計		
教育学部	学校教員養成課程	4以上	-	4以上	-	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修
経済学部	経済学科	4以上	4以上	8以上	--	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修
	経済学科 DSEP					応用英語は、経済学部が開講する演習科目を必修
	経済学科 LBEPP					
経営学部	経営学科	4以上	2以上	6以上	-	実践英語は、「実践英語プレゼンテーション」、「実践英語LR」を必修
	経営学科 DSEP					
理工学部	機械・材料・海洋系 学科	機械工学EP	6以上	2以上	8以上	-
		材料工学EP	6以上	2以上	8以上	-
		海洋空間の システム デザインEP	6以上	2以上	8以上	-
	化学・生命 系学科	全EP	6以上	2以上	8以上	-
		数理科学EP	6以上	2以上	8以上	4以上
	数物・電子 情報系 学科	物理工学EP	6以上	2以上	8以上	-
		電子情報 システムEP	6以上	2以上	8以上	-
		情報工学EP	6以上	2以上	8以上	-
都市科学部	都市社会共生学科		4以上	2以上	6以上	4以上
	建築学科		6以上	2以上	8以上	4以上
	都市基盤学科		6以上	2以上	8以上	-
	環境リスク共生学科		6以上	2以上	8以上	-

※表の数字は卒業に必要な単位数です。外国語科目は基本的に半期（春学期または秋学期）15回の授業=2単位となっており、例えば『4以上』と記載のある場合は、半期の授業を2科目履修する必要があります。詳細は入学後に「全学教育科目履修案内」及び「各学部履修案内」等を必ず確認してください。

※初修外国語は、同じ言語の「〇〇語1」(2単位)と「〇〇語2」(2単位)を1セット(4単位)として卒業に必要な単位へ算入されます。「〇〇語1」のみでは算入されません。同一言語の「〇〇語1」と「〇〇語2」を2セット(8単位)修得することで、発展的内容の「〇〇語3」(2単位)を履修することができます。

## ○ 英語科目履修ガイド

本学では、全学教育 / 教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現するため、英語教育は特に重要と位置付けており、英語の4技能「聞く（Listening）、読む（Reading）、話す（Speaking）、書く（Writing）」を網羅する複数の科目を開講しています。学生は、所属学部の学科等（学士プログラム）が指定する英語科目を履修します。また、卒業に必要となる英語科目の履修単位数も、学士プログラムごとに指定されています。

英語科目によっては、履修するために必要な TOEFL-ITP スコアが指定されています（このページの（2）表、参照）。例えば、「応用英語1」を履修するには TOEFL-ITP 450 点以上のスコアが必要です。これは履修するための条件なので、「応用英語1」を2年次に履修するためには、1年次初めのプレイスメントテストや1年次末の英語統一テスト等で、2年次の開始までに履修条件を満たすスコアを取得しておかなければなりません。また、3年次以降では「TOEFL-ITP 学内実施」等でより高いスコアを取得することで、大学院進学や卒業後のキャリア形成を目指す「応用英語2a」「応用英語2b」といった、より高度な英語科目を履修することができます。

### （1）英語科目の編成（セメスター科目）

英語科目は、「実践英語」の諸科目、「応用英語1」、そして「応用英語2」で編成されています。「実践英語」は、一般的な英語の運用能力を向上させる授業内容です。「応用英語1」は、各学部の専門に近い内容で、「リーディングと語彙（Reading & Vocabulary: RV）」と「リスニングとスピーキング（Listening & Speaking: LS）」の向上に焦点を当てた2つのフォーカスタイプのいずれかを選択し、履修します。「実践英語」も「応用英語1」も、90分授業を15回（定期試験を除く）履修することにより2単位取得する科目であり、授業時間内の実践的な学習と相応な授業時間外学習が求められます。「応用英語2」は大学院進学や卒業後のキャリア形成等を視野に入れた、より高度な英語科目です。

### （2）英語科目の履修の流れ

授業科目名 (必要なスコア)	単位	○: 必修 ◇: 自由選択 無印: 履修しない					履修年次 (区分)
		教育	経済	経営	理工	都市科学	
実践英語プレゼンテーション	2	○	○	○	○	○	1年次から (実践英語)
実践英語ライティング	2				○	◇都市社会共生学科 ○上記以外の学科	
実践英語LR	2	○	○	○	○	○	
応用英語1 (ITP 450点)	2			○	○	○	2年次から (応用英語)
応用英語2a (ITP 520点)	2	◇	◇	◇	◇	◇	
応用英語2b (ITP 550点)	2						3年次から (応用英語)

※◇については、選択履修した場合、どの科目区分の単位に算入されるのか、各学部の履修案内で確認してください。

## ○ 初修外国語履修ガイド

全学教育／教養教育の目標である「国際感覚を養い、異文化への理解を深め、十分なコミュニケーション力を高める」ことを実現し、世界の多元性や多様性の認識を深め、共生への理解を育むため、異文化理解教育として初修外国語科目を開講しています。初修外国語は、ドイツ語、フランス語、イスパニア語、ロシア語、中国語の5言語です。

初修外国語を必修としているのは以下の学科・EP（学士プログラム）です。

- ・理工学部数物・電子情報系学科数理科学 EP
- ・都市科学部都市社会共生学科
- ・都市科学部建築学科

※必修以外の方の履修については、入学後に全学教育科目履修案内や所属学部からの案内等を確認してください。

## (1) 各外国語の紹介

### ・ドイツ語

ドイツ語は現在、ドイツ、オーストリア、スイスの一部地域など、ヨーロッパ中央域を中心に使われている言語です。授業では、①ドイツ語およびドイツ語が用いられている国や地域を知ってもらうこと、②文法の概略を理解し、ドイツ語という言語の全体の仕組みが大まかに眺め渡せるようにすること、③グローバル化する時代の要請に応え、実用的に運用できる語学力を養成すること、の3つを目標とします。

### ・フランス語

フランス語はフランスだけでなく、ヨーロッパ、アフリカ、北米、南太平洋諸国でも使われているほか、国連など国際組織や国境なき医師団のような国際NPOにおいても英語と並んで公用語あるいは事務用語として用いられています。料理や芸術、服飾や一部のスポーツ競技の語彙にもフランス語が多用されているほか、国際公務員や青年海外協力隊などフランス語能力が求められるケースもあります。

フランス語実習Ⅰは、入門および基礎的文法を学ぶことが中心となります。フランス語話者による会話の授業もあります。また、仏検とDELFというフランス語能力資格試験もありますので、是非チャレンジしてみてください。本学からフランスの大学への派遣留学には仏検3級程度の能力が必要となります。

### ・イスパニア語（スペイン語）

イスパニア語（スペイン語）は国連公用語の1つであり、世界で約4億2千万人の人々によって日常的に話されています。イスパニア語（スペイン語）を公用語としている国と地域の数は20以上あり、英語（約80の国・地域）、フランス語（約50の国・地域）、アラビア語（約27の国・地域）に次ぐ4番目に多くの国で使用されている言語になります。ラテンアメリカ地域では国際共通語となり、メキシコ以南で生活をする際には不可欠な言語になります（カステジャーノと表現されます）。国際公務員や青年海外協力隊などでイスパニア語（スペイン語）の能力が求められるケースもあります。

本学では、イスパニア語（スペイン語）を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。

### ・ロシア語

ロシア語は国連公用語の1つであり、現在のロシアだけでなく、旧ソ連圏に属す多くの国々で使われている言語です。また、ヨーロッパ東部の諸国では、ロシア語と同じスラヴ語系の言語が多く使われています。これらの言語は語彙や文法などの共通性も高いことから、中央ヨーロッパから北東アジアにかけての広い地域で使われている言語について知る上でも重要な手がかりとなります。

本学では、このような特徴を持つロシア語を文法と基礎的な会話表現の両面から学ぶことができます。近年は紛争やそれに伴う国際関係上の大きな変動も起こっていますが、複雑化し多様化する国際社会についての客観的な理解を深めるためにも、新しい言語に触れて世界を見る視野を広げてください。

### ・中国語

中国語は中国大陆や台湾だけでなく、シンガポール、マレーシアをはじめとする東南アジアの華人社会でも広く使われています。アメリカ、カナダ、オーストラリア、ヨーロッパ諸国にもチャイナタウンがある都市が多く、そこでは優勢言語に囲まれつつも人々の生活に中国語が息づいています。本学の中国語教育では、中国大陆の共通語である普通話（pǔtōnghuà）を中心に教えています。シンガポールや台湾など他の中国語圏の言語状況や文化を紹介する授業もあります。学習者は初級から上級まで文法と会話を学ぶことができます。さらに、より広範な中国語圏の多様性やグローバルな文化的背景に触れ、その知識をもって世界を多角的に見る力を養うことができます。

## (2) 初修外国語科目的編成

初修外国語Ⅰ・Ⅱは、基礎的な知識を修得させる初級レベルの授業内容です。

初修外国語Ⅲは、専門領域の研究や卒業後のキャリアのため、より高度の知識・教養を修得させる中級レベルの授業内容です。

### (3) 初修外国語科目的選択方法

授業科目名 (セメスター科目)	単位	教育	経済	経営	理工		都市			履修年次 (科目区分)
					数理 科学	他の EP	都市 社会 共生	建築	他の 学科	
ドイツ語 1・2	2	自由選択	自由選択	自由選択	1言 語 4 単位 以上 選択 必修	自由選択	1言 語 4 単位 以上 選択 必修 ※	自由選択	1年次	
フランス語 1・2	2									
イスパニア語 1・2	2									
ロシア 1・2	2									
中国語 1・2	2									
初修外国語3	2	原則として、同一言語の「〇〇語1」+「〇〇語2」を2セット (計8単位) 以上修得しなければ履修できません。							2年次以降	

※都市科学部社会共生学科は、英語科目と初修外国語科目をあわせて外国語科目14単位以上選択必修

### (4) 初修外国語1・2の履修方法

言語ごとに「〇〇語1」「〇〇語2」の2科目を開設しています。火曜日及び金曜日の1限・2限から所属学部の学科・EP等(学士プログラム)ごとに履修曜日・時限が指定されています。

開講されている各言語から1言語を選択し、春学期に「〇〇語1」、秋学期に「〇〇語2」を履修してください。「1」と「2」の二つを合わせて1年間で完結するような授業内容ですので、秋学期は春学期と同一曜日・時限・教員のクラスに事前決定しています。ただし、春学期に「〇〇語1」の単位を修得できなかった場合、秋学期の「〇〇語2」を履修することはできません。やむを得ず事前に決定しているクラスを変更したい場合は、別途掲示される外国語WEB履修登録手引きを確認してください。また、再履修時は、同一言語であれば不可だった際と異なる担当教員のクラスを履修しても差支えありません。

なお、同一言語で「〇〇語1」+「〇〇語2」の【1セット4単位】を修得しないと卒業に必要な外国語の単位に算入されませんので、注意してください。「〇〇語1」+「〇〇語2」のセットで修得していない場合(例えば、〇〇語2の単位修得ができなかった場合や〇〇語1の単位を春学期に修得したものの、秋学期に〇〇語2を履修しない場合など)、修得済の2単位分は卒業に必要な単位に算入されません。

必修科目の場合、受講クラスは入学前に行う希望言語の履修希望調査に基づき決定します。

履修希望調査へ回答しなかった場合や自由科目として履修する場合は、履修登録期間に行われる外国語WEB履修抽選へ申請してください。

語学研修や海外留学を検討している場合、または2年次以降に〇〇語3の履修を希望している場合は、「〇〇語1」と「〇〇語2」を週2クラス(通年で8単位)履修できます。必修科目で受講を指定されたクラスが1クラスのみの場合は、履修登録期間に行われる外国語WEB履修抽選で2クラス目を申請してください。同じ学期で「〇〇語1」(または「〇〇語2」)を2クラス履修する場合、同一教員のクラスは履修できません。

「〇〇語2」のクラスは、春学期に履修した「〇〇語1」と同一教員の同一曜日・時限のクラスを履修してください。なお、「〇〇語1」を修得した年度とは別の年度に「〇〇語2」を履修する場合は別教員でも構いません。